

東京大学東洋文化研究所  
附属東洋学研究情報センター

平成19年度事業報告

## 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

設 立 平成 11 年 4 月 1 日  
所在地 〒113-0033  
東京都文京区本郷 7-3-1  
電 話 03-5841-5839  
FAX 03-5841-5898  
URL <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

### 現状と課題（平成 19 年度）

#### はじめに

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（1966 年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成 11（1999）年 4 月 1 日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野と比較文献資料学分野とに分かれる。造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、漢文や中国語に限らずさまざまなアジアの言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授・准教授各 1 と、比較文献資料学分野担当の教授・准教授各 1 に、それらを補佐する助准 1 からなる。

また、上記の文献・造形資料学の研究に加えて、新たにアジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを目指す研究情報プロジェクトを平成 15 年度から開始した。こうした新事業の展開を通じて、研究所が行うアジア各地域・各分野に関する先端的な研究を支えるアジア資料学の構築に加え、アジア研究情報を収集・加工・発信する研究情報センターとしての機能がさらに強化され、また学界や社会に対して大きな貢献がなされることが期待されている。

平成 15 年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施した。(個別のプロジェクトについては別表参照)

平成 19 年度は、各データベースにおいて追加入力等を行い、その成果をセンターのウェブサイト上で公開した。

成果普及活動としては、漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』と文献目録資料『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行した。全国文献・情報センター長会議、全国漢籍データベース協議会総会への参加、セミナーの主催をはじめ、学内外の関係機関との交流を深めた。

2004 年度に開始された東アジア研究の促進事業は、2003 年の ASEAN+3 ミーティングで、日本が提唱し、承認された事業である。2005 年 1 月に ASEAN+3 の 13 カ国（日本を含む）と AUN: ASEAN University Network の研究者を招き、2 日間のミーティングを行い、NEAS: Network of East Asian Studies という組織を立ち上げた。当センターが、第 4 回会合まで幹事機関を務め、2008 年 3 月 10 日から 12 日にはタイ国で、第 4 回東アジア研究促進ネットワーク会合を開催した。

## A 人員・施設

### 1. 教職員

研究情報センター長	教授	小川 裕充
研究情報センター	教授	丘山 新
	教授	榊屋 友子
	准教授	玄 大松
	助教	保城 広至

### 2. 施設

#### 現在面積

事務室	64 平方メートル
作業室 1	24 〃
作業室 2	48 〃
計	136 平方メートル

## B 本年度実施状況

### 1. センタープロジェクト

研究情報の収集、資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを募集し、実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

試行プロジェクト……重点プロジェクトに移行することを目的として、試行的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

### 重点プロジェクト

#### 1. 貴重漢籍の保存とデジタル化／丘山

[文献]

##### ◆全体計画

東洋文化研究所が所蔵する貴重漢籍の保存のために、資料をデジタル化してネットワーク上で公開し、一般の利用に提供する。このことにより、原資料は一般の閲覧や複写による劣化を避けることができると同時に、研究所に来所することなく、資料を閲覧することが可能になる。また、この種の資料公開は、国内外に先駆けて行われるものであり、将来の国際連携善本データベース構築のためのパイロット・スタディーとなる。

##### ◆今年度の進捗状況

本年度は、『大清摺紳全書』を主要なものとして2万コマのデータを追加入力した。

##### ◆具体的な成果物

貴重漢籍善本全文画像データベース <http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/> で公開中

#### 2. アジア美術画像アーカイヴ／小川

[造形]

##### ◆全体計画

当研究所では、この60年来、世界の公私コレクションに所蔵される中国絵画の調査・撮影を実施し、写真資料の収集・公開に努めてきた。その結果、資料点数は無慮20万点に及ぶ。本プロジェクトは、これを中核として、東南アジア彫刻スライド資料2万点など、新たなものを加えると同時に、さらに工芸分野にもわたる調査・撮影旅行を実施して、総合的なアジア美術画像アーカイヴの構築を目指すものである。

##### ◆今年度の進捗状況

今年度は、アメリカ・カナダ及び東南アジア調査旅行を実施した。対象国・地域は、アメリカ合衆国・カナダ、及びタイ・マレーシア・シンガポールである。前者においては、中国絵画約1400点の調査撮影を行い、後者においては、バンコク国立博物館やマレーシア国立歴史博物館などに所蔵される東南アジア彫刻約180点の補足調査を行った。また、17年度に実

施したインドネシア補足調査に基づき、上記の東南アジア彫刻スライド資料2万点のうち、5割ほどの整理を終了した。

### 3. 中国美術関係資料の収集とデジタル化／板倉

[造形]

#### ◆全体計画

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。一昨年度より開始したアジア美術プロジェクトであるが、ここでは引き続き中国絵画の作品データの収集を行うこととする。その上で、アジア諸地域における美術の様相を比較・検討していく基礎とする。

#### ◆今年度の進捗状況

今年度も引き続き継続して写真のデジタル化を進め、公開中の中国絵画所在情報データベースおよび東アジア絵画史研究文献目録のデータの修正を行った。特に後者については全時代のもを網羅できるようにデータを補充した。しかし、既に不安定であったサーバが故障したため、その後はその復旧作業を行い、より安定した新たなデータベースを開発中である。

#### ◆具体的な成果物

中国絵画所在情報データベース 公開中

東アジア絵画史研究文献目録 公開中

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

### 4. イスラーム美術作品画像アーカイブ／梶屋

[造形]

#### ◆全体計画

世界の様々なコレクションに収められているイスラーム美術作品の調査研究を行って収集した画像資料を整理・分類・分析することによって、アジアにおいて文化的・国家的自己同一性の追求と形成がいかに美術に即していたかについて、イスラーム地域の事例を供するものである。

#### ◆今年度の進捗状況

フランス、ルーヴル美術館所蔵のイスラーム期ペルシア・タイルを調査し、その調査写真を整理し、さらに銘文を解読して、320点をデータベースに入力した。

#### ◆具体的な成果物

蓄積データ数が少なく、美術館および美術財団所蔵品の画像については著作権の問題があるため、公開形態も含めて検討中である。

### 5. 東文研蔵アジア写真資料データベース／平勢

[造形]

#### ◆全体計画

当研究所が戦前以来今日にいたるまで研究上の必要から収集してきたアジア関係の研究写真資料を集成し、インターネット等で公開しようとするもの。

#### ◆今年度の進捗状況

すでに『東文研蔵アジア写真資料データベース』を立ち上げ、「インド史跡調査」・「山本賛七郎写真ガラス乾板データベース」・「清朝建築図様デジタルアーカイブ」・「関野貞収集中国碑碣卓方資料アーカイブ」・「植民地期ビルマの土地関係資料写真データベース」・「東アジアの亀跡」を公開している。今年度は、これらの充実をはかるとともに、ガラス乾板や、関連するアルバム等の整理作業をすすめた。

◆具体的な成果物

デジタル写真資料をDVDとして保管するとともに、一部を試験的に内部で閲覧できるようにした。

6. 東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築／榎屋 [造形]

◆全体計画

東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター管理の「東京大学インド史跡調査団写真資料」は、1999～2001年「インド・イスラム史跡データベース」（中里、深見）、2002～2004年「イスラーム地域造形資料データベース構築」（榎屋）を通じてデジタル化、データベース構築が進行されてきた。写真のデジタル化は平成17年度をもって完了したが、現在失われた史跡も多く含んだこの貴重な写真資料が世界的に、より多くの研究者の利用に供することができるようにするため、データベースの改良と資料の出版を進めて行く。

◆今年度の進捗状況

新たに東文研9階から発見されたガラス乾板の整理、18年度に撮影した調査団作成の図面約300点のデータベースへのアップ、デリーのモスク遺構についての資料と解説の英訳を行い、データベースにアップした。

◆具体的な成果物

東京大学東洋文化研究所蔵インド史跡調査資料デジタルアーカイブ

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html>

2001年度より公開

7. アジアバロメーター／田中 [研究情報]

◆全体計画

アジア・バロメーターは、アジア全域、29カ国に跨って生活している普通の人々の生活規範・意識・態度などを地域別、国家別、時系列的に比較するための世論調査である。2003年6月の第一回世論調査を皮切りに、毎年調査を実施し、2007年度に五回目の調査を行った。調査データをもとに各国の専門家が様々な側面から分析し、討論を重ね、シンポジウムでそれらを社会に向けて発信してきた。またその成果はアジア・バロメーターソースブック（英語版と日本語版）として刊行され、アジアにおける社会科学の学問的発展に寄与してきた。

◆今年度の進捗状況

7月9日(月)から13日(金)までの間、東京船堀で開かれた計量心理学会国際大会(International Meeting of the Psychometric Society, IMPS2007)において、アジア・バロ

メーターセッションをもうけ、5人が報告した。また、7月に東南アジア7カ国（ミャンマー、ラオス、カンボジア、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン）で調査を実施し、その分析結果に関するワークショップとシンポジウムを、12月12日、13日両日間東京で開催した。ワークショップには、11カ国から23人の学者が集まって討議をおこなった。また、プロジェクトに3名の研究補助員を採用して、ウェブサイト掲載のための図表を作成した。

◆具体的な成果物

2004年調査の日本語版ソースブック『躍動するアジアの価値観』（明石書店）が2007年8月に、2005年調査をまとめた英語版のソースブック *Human Beliefs and Values in Incredible Asia* (Akashi Shoten) が2008年3月に刊行された。また、2005年度までのデータと図表をウェブサイト [www.asiabarometer.org](http://www.asiabarometer.org) で公開している。

**試行プロジェクト**

8. インターネット公開のための電子辞書作成プロジェクト／永ノ尾

[文献]

◆全体計画

このプロジェクトでは二つの電子辞書の作成をめざす。

ひとつは、現存するアジア古籍であるサンスクリット文献とそのチベット訳文献を用いて、すでに散逸した膨大なサンスクリット原典資料の論理的再構成を支援する環境（構文対照電子辞書）を構築する。これによって仏教の古籍を解明するための重要な工具を電子的に構築することになる。あとひとつは、元・京都大学教授の伊藤義教氏が遺した中世ペルシア語の単語カード20,000枚余を編集し、電子辞書を作成するものである。現行辞書に比べて収録語彙数が5倍近くになり、且つ遥かに詳しい用例・出典・用法を完備した辞書になる予定である。このふたつのプロジェクトは「アジア古籍電子図書館の構築」に大きく貢献することができる。

◆今年度の進捗状況

サンスクリット原典の現存する以下の各資料につき、チベット訳資料との構文対照データを作成し、検索用サーバに搭載した。

資料名	サイズ(バイト)	シラブル数
<i>Buddhacarita</i>	393,544	40,913
<i>Saddharmapuṇḍarīka</i>	44,669	3,186
合計	438,213	44,099

表1 平成19年度作成データ（平成20年3月10日現在）

中世ペルシア語辞書のローマ字転写、意味、出典の入力し、インデックスを作成する作業を完了した。また、単語カードの写真版作成も完了した。現在は、両者を統合して検索可能にし、『ゾロアスター教パフラヴィー語 Web 辞書』としてネット上で公開する最終調整中である。

◆具体的な成果物

- (1) eDic の Web サイト            <http://suzuki.ypu.jp/edic/>  
(2) eDic の検索サイト            <http://texa.human.is.tohoku.ac.jp/aiba/demo/eDv/html/>  
    検索サイトの利用状況        平成 19 年度計 1,507 回（平成 20 年 3 月 10 日現在）

伊藤義教、『ゾロアスター教パフラヴィー語 Web 辞書』、青木健（編）、東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センターのサイト

<http://gikyuito-pahlavi.ioc.u-tokyo.ac.jp>で、2008 年 4 月より公開予定

## 9. アラビア文字圏ポリグロットグロサリー構築プロジェクト／鈴木

[文献]

### ◆全体計画

古籍を中心とした多言語によるアジア電子図書館構築にあつて、アジアの主要地域に 3 つの文字圏として捉え得ることに鑑みれば、各文字圏についてポリグロット・グロサリーを作成し、常に利用しうる体制としておくことは、それ自体が多言語による電子図書館のレファレンス部門として不可欠の意味を持つとともに、古籍研究自体にとっても強力な武器となるであろう。ここで、アジアの 3 大文字圏中、とりあえずアラビア文字圏を対象として、ポリグロットグロサリー作成に取り組むこととしたい。

### ◆今年度の進捗状況

本年度は、前年度のアラビア語・ペルシア語・オスマン語・トルコ語の基本的辞書のデジタル化作業をふまえ、アラビア語・ペルシア語・トルコ語のもっとも基本的な辞書の見出し語を、アラビア文字のアルファベット配列に基づきつつ、コンピューターに入力する作業を進め、ペルシア語辞書及びローマ字表記の現代トルコ語辞書の見出し語の入力作業をほぼ完了し、再点検に入った。また、アラビア文字表記のトルコ語であるオスマン語についても、見出し語の入力を進め、かなりの部分の入力を終えた。CD 化した辞書を加工してポリグロットグロサリーとして編集するための基礎作業については、前年度に引き続き、手法確立のための試験的作業を進めつつある。

## 一般プロジェクト

## 10. ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料／永ノ尾

[文献]

### ◆全体計画

ヴェーダ文献とポスト・ヴェーダ期の儀礼文献が伝えるさまざまなレベルの儀礼に関する情報を項目別に分類整理して収集し、儀礼研究の基本資料を作成する。毎年、授業や研究発表のために読む文献から、それらの情報を蓄積していく。

### ◆今年度の進捗状況

「人生儀礼」に関して主としてヴェーダ文献の情報を収集した。さらにヒンドゥー教のタントラ文献および仏教の密教文献の儀礼に関する情報を引き続き収集した。その結果 104,282 行、17,277,431 バイトのデータベースになった。



## 11. 東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース／大木

[文献]

### ◆全体計画

東洋文化研究所が所蔵する約8万点、25万冊の漢籍について、その書名・撰著者はじめ、その他の詳細な書誌情報を含めた目録情報データベースである。検索機能にとどまらず、階層構造（冊子体と同じ配列）でも閲覧できるようにもなっており、学習・研究用にも資する。全国漢籍目録データベースとも連動している。

### ◆今年度の進捗状況

今年度は、雙紅堂文庫の約2,000件のデータを追加入力した。また、貴重漢籍全文画像データベース20,000件との連携付けをした。

### ◆具体的な成果物

東洋文化研究所漢籍目録データベース<http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html> で1999年4月から公開中。

## 12. 仁井田コレクション北京文書の整理／黒田

[文献]

### ◆全体計画

仁井田コレクションの北京契約文書は18-20世紀における清代の社会生活、北京の商業活動・不動産などの取引および都市の社会経済構造に関する情報が多く含まれている貴重な資料である。関連の情報収集を含め、これらの契約文書を項目別に分類整理して、資料の目録データベース構築・デジタル化と研究を進めていく。

### ◆今年度の進捗状況

仁井田コレクション北京文書の中の清代における生活用水売買関連以外の文書部分を撮影し、デジタル化を行なった。デジタル化は関係者の献身的努力によりほぼ終了した。

## 13. アジアのエリートと組織の比較研究の為のデータベース作成に向けての基礎作業／鈴木

[文献]

### ◆全体計画

アジアのエリートと組織についての基本資料についてのデータベース作成とそのための資料の選択を行い、利用法の検討をも目指す。当面、アジアの諸文化圏中、アラビア文字圏と漢字圏を比較研究の対象とする。

### ◆今年度の進捗状況

平成19年度には、アラビア文字圏につき、一部基礎資料のデータベース化を進めた。

## 14. 旧東方文化学院蔵考古資料のデジタル化／平勢

[造形]

### ◆全体計画

旧東方文化学院蔵の諸資料をインターネット等で公開すべく、デジタル化を進めるもの。

### ◆今年度の進捗状況

ガラス乾板から写真資料のデジタル化を進めた。

## 15. インドネシアの更紗（バティック）画像データベース作成／関本

[造形]

### ◆全体計画

代表者はこれまで、アジアにおける地場産業・伝統技能の研究の一環として、インドネシアの更紗製造業調査を続けてきた。手元にある更紗布地約200枚について情報を公開したいので、画像データベースを作る。300枚のなかには美術工芸的に興味深いものも、そうではないが更紗製造業の多様性の資料として意味のあるものもある。この両者を対象にする。

### ◆今年度の進捗状況

野久保技術職員の協力を得てバティック布をデジタル撮影し、約200枚の撮影を終えた。また1枚ごとの布のデータ表の作成を開始した。

## 16. データベース 20世紀・21世紀年表／田中

[研究情報]

### ◆全体計画

すでに公開している「データベース20世紀・21世紀年表」（1900年から2005年9月）の収録期間をさらに約1年延長し、2005年10月から2006年後半までのデータを追加するとともに、20世紀の期間について項目を補充し、さらに完備した年表データベースとすることを目的とする。

全体として、20世紀から21世紀初頭にかけての、日本と世界における重要な出来事について、時系列順に整理した上でそれぞれの概要を収録し、柔軟な検索システムも持つ、漢字仮名交じり（アルファベット・数字も含む）の日本語によるデータベースを作成する。

### ◆今年度の進捗状況

「データベース20世紀・21世紀年表」には、すでに1900年から2005年9月までの、218797件の年表データが収録され公開されていたが、平成19年度は、直近の2005年10月から2006年12月にいたるまでのデータならびに1900年から2000年の補充項目の、合計約15826件のレコードを作成し、入力した。

また、すでに公開しているデータについても、主要国首脳会議やAPECなどについては、各国の出席者などの情報を追記した。

### ◆具体的な成果物

データベース「世界と日本」

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/>

## 2. 公開・発信

### (a) ホームページの更新・運営

センターホームページ (<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>) の充実をはかり、平成 19 年度の事業報告及び漢籍整理長期研修の講師・課目・日程を追加した。また、研究情報の提供を目的とする「アジア研究情報 Gateway」和文サイトでは、研究エッセイ、書店ガイド、留学案内の情報を更に増やし、同英文サイトでは研究エッセイを更新した。平成 19 年 1 月に開設した「NEAS」のホームページについては、新たなホームページアドレス (<http://www.neas-asean-plus3.net/>) において更新した。

### (b) 研究成果・データベースの公開

貴重漢籍善本全文画像データベースでは『大清摺紳全書』を主要なものとして 2 万コマのデータを追加入力した。

中国絵画所在情報データベースおよび東アジア絵画史研究文献目録では、データの修正・補充を行った。

東京大学東洋文化研究所所蔵インド史跡調査資料デジタルアーカイブでは、新たに東文研 9 階から発見されたガラス乾板の整理、18 年度に撮影した調査団作成の図面約 300 点のデータベースへのアップ、デリーのモスク遺構についての資料と解説の英訳を行い、データベースにアップした。

東洋文化研究所漢籍目録データベースでは、雙紅堂文庫の約 2,000 件のデータを追加入力した。また、貴重漢籍全文画像データベース 20,000 件との連携付けをした。

アジア・バロメーターでは、2004 年調査の日本語版ソースブック『躍動するアジアの価値観』（明石書店）が 2007 年 8 月に、また、2005 年調査をまとめた英語版のソースブック *Human Beliefs and Values in Incredible Asia* (Akashi Shoten) が 2008 年 3 月に刊行された。

データベース 20 世紀・21 世紀年表では、直近の 2005 年 10 月から 2006 年 12 月にいたるまでのデータならびに 1900 年から 2000 年の補充項目の、合計約 15826 件のレコードを作成し、入力した。

### (c) アジア・デジタル展示館

本研究所が所蔵する貴重書、写真、考古資料等のデジタル化と公開を継続中である。

### (d) 出版

ニューズレター『明日の東洋学』は第 18～19 号を刊行し、全てのバックナンバーの PDF ファイルをホームページ上で配布している。東洋学研究情報センター叢刊は第 8 輯『伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第 3 卷(1)』及び第 9 輯『Old Maps of Tuva 1』を刊行した。

### (e) 漢籍整理長期研修

平成 19 年度は 6 月 18 日～9 月 7 日に実施し、6 名が受講した（日程及び受講者名簿は 20～21 頁を参照されたい）。6 月 18 日～22 日の 1 週間は人文社会系研究科文化資源学専攻の授業を兼ねており、本学の学生 6 名が受講した。

(f) シンポジウムの開催

12月13日(木) 東京大学山上会館において、当センタープロジェクト「アジア・バロメータ」に関するシンポジウムを中央大学と共催で実施した。

3. 平成19年度全国文献・情報センター長会議(第43回)

平成20年1月25日(金)に一橋大学佐野書院にて行った。文部科学省からは研究振興局情報課学術基盤整備室・情報研究推進専門官が参加した。4センターを中心とする今後の組織的なあり方を討議し、統一テーマによる人文社会科学学術情報セミナーの開催等について討議した。

## C 平成20年度の事業目標

平成20年度は、従来どおり、17年度より始めたセンター事業に対する抜本的な再検討を継続する一方、センター経費に加えて、新たに外部資金を導入するなど、16年度より改めた点は継承しつつ、既存の事業の整理・統合を実施し、新規事業を展開する。

第一に、センター事業の基軸をなすセンタープロジェクトのうち、文献資料分野においては、従来どおり、古籍を中心とした多言語によるアジア電子図書館の構築というグランドデザインのもと、アジア各地域の多言語資料を順次データベース化し、その公開を継続的に実現してゆく。センター経費に加えて科学研究費補助金をも投入するこの事業の重点は、研究蓄積が進んでいる東アジアの漢籍資料に置く。また、造形資料分野においては、新規事業の第3年度として、やはり科学研究費補助金（基盤研究S）とセンター経費とを基盤として、従来から継続してきた中国絵画のそれを中核とするアジア美術画像アーカイブの構築をさらに推進する。また、文献・造形両資料分野にまたがるものについては、これまでの成果を踏まえつつ、センター・プロジェクト経費により、東洋文化研究所所蔵写真資料のデータベース構築を継続する。なお、本項目で言及したプロジェクトに関わる個別のプロジェクトについては、別表を参照されたい。

第二に、平成15年度から開始した新しい型の研究情報プロジェクトについては、アジア・バロメーターの一層の充実を目指す。

第三に、研究所内外の研究成果の公開・発信事業としては、同じく平成15年度から開始したアジア研究情報ゲートウェイを維持・発展させ、本20年度も、19年度から位置づけたセンターの恒常的な事業として、センター共通経費から支弁して推進する。また、これまで四半世紀にわたって継続してきた漢籍整理長期研修を実施するとともに、ニューズレター『明日の東洋学』、及び内外の研究者を編者に迎えて、東洋学関係の各種資料を公開する『東洋学研究情報センター叢刊』を刊行する。さらに、全国文献・情報センター長会議や同共催セミナーへの参加をはじめ、学内外の関係機関との交流を促進する。特に最後の件に関する問題として挙げられるのは、4センターとなった全国文献・情報センター長会議の枠組を如何に再構築してゆくかである。

改めて言うまでもなく、上記に述べた積極的な事業展開のためには、センター経費だけでは不十分である。昨年度に引き続き、科研費などの競争的経費を獲得して各種事業を展開するとともに、安定的な資金の確保をも模索したい。また、センタープロジェクトの発展に伴い、作業スペースを拡大するとともに、各種データベースや文献・造形資料などの公開スペースを確保することも、センター改組・拡充以来の重要な課題である。

なお、昨年度に報告した当研究所建物の耐震改修工事については、幸いにして、一昨年度に認められた補正予算による処置により、昨年度中に完工、既に第一次の移転を行い、各事業も、各方面のご協力により、一部を除いて、ほぼ順調に推移している状況である。

この夏にも予定されている第二次の移転を待つて、ほぼ全面的に復旧する予定であるので、その後は、センターの全力を結集し万難を排して、新たな時代を切り開いてゆく所存である。各方面に引き続き協力方をお願いする次第である。

これまでのセンタープロジェクト一覧

	プロジェクト名／担当教員	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	
1	現代中国書データベース／岡本	セ	一般								国立情報学研究所にデータ提供。情報学研究所の公開開始までは当センターが同データベースを公開（現在は終了）。
2	東文研所蔵タイ語資料データベースの構築／池本						試行				データベースを公開。 <a href="http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_Index.html">http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/thaidb/Thai_Index.html</a>
3	インドネシアの更紗（バティック）図像データベース作成／関本							一般	一般	一般	資料のデジタル撮影完了。
4	『アジア・バロメーター』／猪口、田中				重点	重点	重点	重点	重点	重点	ウェブサイトを開発。 <a href="http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/">http://avatoli.ioc.u-tokyo.ac.jp/~asiabarometer/</a> 刊行物：『アジアバロメーター 都市部の価値観と生活スタイル』『Human Beliefs and Values in Striding Asia』毎年シンポジウム開催。
5	アジア研究情報ホームページ／丘山、小川					試行	重点	重点	重点		データベースを開発。 <a href="http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> 恒常的な事業として継続
6	戦後日本政治・外交データベース／田中						一般				データベースを開発。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html</a> ※No.7に発展的に継続。
7	データベース20世紀・21世紀年表／田中							一般	一般	一般	データベースを開発。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldjpn/index.html</a>
8	東アジア族譜データベース／宮崎	セ	重点	重点							データベースを開発。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~koreandb/zokufuindex.htm">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~koreandb/zokufuindex.htm</a>
9	在外日本企業作成資料のデータベース化／濱下			試行	重点	試行	試行				
10	仁井田コレクション北京文書の整理／黒田								一般	一般	資料のデジタル撮影完了。
11	江戸・明・古代プロジェクト／平勢			一般	一般	一般	一般	一般			データベースを開発。 <a href="http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/topmenu.html">http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/topmenu.html</a> /
12	旧東方文化学院所蔵考古資料のデジタル化／平勢						試行	試行	一般	一般	センター叢刊6輯『東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録I』
13	東文研蔵アジア写真資料データベース／平勢							重点	重点	重点	データベースを開発。 <a href="http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/takuhon/index.html">http://kande0.ioc.u-tokyo.ac.jp/ap/takuhon/index.html</a> <a href="http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/kihu/index.html">http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/kihu/index.html</a>

	プロジェクト名／担当教員	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	
14	倉石文庫漢籍目録の作成とデータベース化／高見沢、丘山、尾崎	セ	重点	重点	重点						東洋文化研究所漢籍目録データベースに収録して公開。 <a href="http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html">http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html</a>
15	東京大学東洋文化研究所漢籍目録データベース／大木	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	一般	データベースを公開。 <a href="http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html">http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html</a>
16	東洋文化研究所図書室漢籍検索システムの編成／尾崎					一般	一般				<a href="http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html">http://www3.ioc.u-tokyo.ac.jp/kandb.html</a> に反映。
17	貴重漢籍の補修とデジタル化／丘山					重点	重点	重点			「東洋文化研究所所蔵漢籍善本全文影像資料庫」として公開。 <a href="http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> ※No. 18に発展的に継続。
18	貴重漢籍の保存とデジタル化／丘山								重点	重点	データベースを公開。 <a href="http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a>
19	東洋文化研究所所蔵中国雑誌目録の作成とデータベース化／尾崎		試行	試行	試行	試行					データベースを公開。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmgz.html">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/cnmgz.html</a> ※No. 20に発展的に継続。
20	東文研所蔵中国雑誌データベースおよび中国近現代文学関係記事データベースのメンテナンス／尾崎						試行				データベースを公開。 <a href="http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/">http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ozaki/</a>
21	中国絵画デジタルアーカイブプロジェクト／板倉、小川	セ	重点	重点	重点	重点					データベースを試験公開。 <a href="http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> ※No. 22に発展的に継続。
22	中国絵画資料の収集とデジタル化／板倉						重点				続編データをアップし公開。 <a href="http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a> ※No. 23に発展的に継続。
23	中国美術関係資料の収集とデジタル化／板倉							重点	重点	重点	データベースを公開。 <a href="http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/">http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/</a>
24	アジア美術画像アーカイブ／小川							重点	重点	重点	
25	Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書構築／鈴木(隆)	セ	一般								Tibetan-Sanskrit構文対照電子辞書を公開（現在は作成者の所属機関＝山口大にサーバを設置）。 <a href="http://suzuki.ypu.jp/edic/">http://suzuki.ypu.jp/edic/</a>
26	南アジアの言語の辞書のデジタル化／永ノ尾						試行				
27	インターネット公開のためのサンスクリット語及び中世ペルシャ語電子辞書作成プロジェクト／永ノ尾						試行	試行	試行	試行	H18年に※No. 25プロジェクトを継承。 <a href="http://suzuki.ypu.jp/edic/">http://suzuki.ypu.jp/edic/</a> <a href="http://texa.human.is.tohoku.ac.jp/ai/ba/demo/eDv/html/">http://texa.human.is.tohoku.ac.jp/ai/ba/demo/eDv/html/</a>
28	東京大学附属図書館所蔵南アジア関係の写本のデジタル化／永ノ尾						試行	試行			サンスクリット語写本データベース <a href="http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp">http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp</a> 2006年4月より公開。
29	ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料／永ノ尾						一般	一般	一般	一般	



	プロジェクト名／担当教員	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	主たる成果
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	
30	英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデータベース化／高橋					試行	試行	試行	試行		データベースを公開。 http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hash/index.html
31	内蒙古出土学術資料のデータベース化／後藤	セ	重点	重点							データベースを所内限定公開。2003年横浜ユーラシア文化館、2004年古代オリエン特博物館に資料を出陳。
32	インド・イスラム史跡データベース／中里、深見	セ	重点	重点							データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml※No. 33に発展的に継続。
33	イスラーム地域造形資料データベース構築／梶屋				試行	試行	試行				データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/htm/index.shtml※No. 34に発展的に継続。
34	東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築／梶屋							重点	重点	重点	データベースを公開。 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/index.html
35	イスラーム美術作品画像アーカイヴ／梶屋							重点	重点	重点	
36	イスラーム地域文献資料データベース構築／長澤				重点	重点					※No. 37に発展的に継続。
37	西アジア近代史文献資料データベース構築／長澤						重点	重点			データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/ShinPenChiShi_Index.html
38	ダイバーコレクションのデータベース化／鎌田					試行	試行	試行	重点		データベースを公開。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html
39	アラビア文字圏ポリグロットグロサリー構築プロジェクト／鈴木							試行	試行	試行	
40	アジアのエリートと組織の比較研究の為のデータベース作成に向けての基礎作業／鈴木								一般	一般	
41	東洋文化研究所所蔵「荒木文書」のデジタル情報化／大田				重点	重点	重点				刊行物：東洋学研究情報センター叢刊第4輯『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史目録』2004年、『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』2005年。
42	中央アジアの伝統的な地域社会組織—マハッラ研究データベース構築／ダバエフ						試行	一般			『東洋文化研究所紀要』第166冊100-149p. 出版物：『マハッラの実像』

## 東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター叢刊既刊一覧

### 東洋学研究情報センター叢刊

- 第1輯 東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002.
- 第2輯 東京大学東洋文化研究所所蔵夕嵐草堂文庫目録 2003.
- 第3輯 東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録 2004.
- 第4輯 東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録 2004.
- 第5輯 東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005.
- 第6輯 東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録 I 2006.
- 第7輯 東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録 2007.
- 第8輯 伊藤義教氏転写・翻訳『デーンカルド』第3巻(1) 2007.
- 第9輯 Old maps of Tuva 1 2008.

### 東洋学文献センター叢刊

- 第1輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和41年度) 1968.
- 第2輯 清代地方劇資料集(一) 1968.
- 第3輯 清代地方劇資料集(二) 1968.
- 第4輯 周揚著訳論文・周揚批判文献目録 1969.
- 第5輯 郁達夫資料 1969.
- 第6輯 東洋文化研究所東洋学文献センター 新収図書目録(昭和42・43年度) 1970.
- 第7輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(上) 1970.
- 第8輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(中) 1970.
- 第9輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇(下) 1970.
- 第10輯 李大釗文献目録 1970.
- 第11輯 明刊元雜劇西廂記目録 1970.
- 第12輯 朝鮮研究文献目録 単行書篇・編著者名索引 1970.
- 第13輯 魯迅全集注釈索引 1971.
- 第14輯 1930年代中国文芸雑誌(一) 1971.
- 第15輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(1) 1972.
- 第16輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(2) 1972.
- 第17輯 朝鮮研究文献目録 論文・記事篇(3) 1972.
- 第18輯 郁達夫資料補篇(上) 1973.
- 第19輯 切韻殘卷諸本補正 1973.
- 第20輯 目録学 1973.
- 第21輯 花間集索引 1974.
- 第22輯 郁達夫資料補篇(下) 1974.
- 第23輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集(一) 1975.

- 第 24 輯 江西蘇区文学運動資料集 1976.
- 第 25 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (二) 1976.
- 第 26 輯 民国以来人名字号別名索引 1977.
- 第 27 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目 (一) 1978.
- 第 28 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (三) 1978.
- 第 29 輯 中国左翼文芸理論における翻訳・引用文献目録 1978.
- 第 30 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (四) 1979.
- 第 31 輯 儀礼疏攷正 (上) 1979.
- 第 32 輯 儀礼疏攷正 (下) 1979.
- 第 33 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (五) 1980.
- 第 34 輯 小説月報 (1920-1930) 総目録 1980.
- 第 35 輯 コミンテルン定期刊行物 中国関係論説・記事索引 1981.
- 第 36 輯 魯迅文言語彙索引 1981.
- 第 37 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目 (二) 1981.
- 第 38 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目 (三) 1982.
- 第 39 輯 仁井田陞博士輯 北京工商ギルド資料集 (六) 1983.
- 第 40 輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説 (上) 1983.
- 第 41 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目 (四) 1983.
- 第 42 輯 校合本 大越史記全書 (上) 1984.
- 第 43 輯 『植民地雜誌』(Koloniaal Tijdschrift) 所収論文目録 1984.
- 第 44 輯 校合本 大越史記全書 (中) 1985.
- 第 45 輯 江西蘇区紅色戲劇資料集 1985.
- 第 46 輯 宋之間詩索引 1985.
- 第 47 輯 校合本 大越史記全書 (下) 1986.
- 第 48 輯 東洋文化研究所所蔵 中国土地文書目録・解説 (下) 1986.
- 第 49 輯 許舒博士所輯 広東宗族契拠彙録 (上) 1987.
- 第 50 輯 沈佺期詩索引 1987.
- 第 51 輯 中華人民共和国・朝鮮民主主義人民共和国 職官歴任表 1987.
- 第 52 輯 韓国政治エリート研究資料 -職位と略歴- 1987.
- 第 53 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目 (五) 1988.
- 第 54 輯 許舒博士所輯 広東宗族契拠彙録 (下) 1988.
- 第 55 輯 南嶽思大禪師立誓願文索引 -六朝隋唐宗教・思想資料- 1988.
- 第 56 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目 (六) 1988.
- 第 57 輯 郁達夫資料総目録附年譜 (上) 1989.
- 第 58 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雜誌記事総目 (七) 1989.
- 第 59 輯 郁達夫資料総目録附年譜 (下) 1990.
- 第 60 輯 山西票号資料 書簡篇 (一) 1990.

- 第 61 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目 (八) 1990.
- 第 62 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目 (九) 1991.
- 第 63 輯 自一九二七年至一九三七年 日本現存短期零本中国雑誌記事総目収載雑誌名索引  
1992.
- 第 64 輯 許壽裳日記 (自 1940 年 8 月 1 日至 1948 年 2 月 18 日) 1993.
- 第 65 輯 許舒博士所蔵商業及土地契約文書 乾泰隆文書 (1) 1995.
- 別輯 1 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録 (書名・人名索引)  
京都大学人文科学研究所漢籍分類目録 (書名・人名通檢)
- 別輯 2 海外所在中国絵画目録 (アメリカ・カナダ編) 1977.
- 別輯 3 海外所在中国絵画目録 (東南アジア・ヨーロッパ編) 1981.
- 別輯 4 日本所在中国絵画目録 (寺院編) 1982.
- 別輯 5 LABRANG 李安宅の調査報告 1982.
- 別輯 6 日本所在中国絵画目録 (博物館編) 1982.
- 別輯 7 日本所在中国絵画目録 (個人蒐集編) 1983.
- 別輯 8 中国經濟關係雑誌記事総目録 (一) — 『中外經濟周刊』『經濟半月刊』『工商半月  
刊』 — 1983.
- 別輯 9 孟郊詩索引 (上) 1984.
- 別輯 10 孟郊詩索引 (下) 1984.
- 別輯 11 中国經濟關係雑誌記事総目録 (二) — 『國際貿易導報』 — 1985.
- 別輯 12 中国經濟關係雑誌記事総目録 (三) — 『中行月刊』 — 1985.
- 別輯 13 『内務行政雑誌』所収論文・記事目録 (A Catalogue of the Articles in Tijdschrift  
voor het Binnenlandsch Bestuur) 1985.
- 別輯 14 中国經濟關係雑誌記事総目録 (四) — 『銀行週報』(上) — 1987.
- 別輯 15 春秋晋国『侯馬盟書』字体通覧 — 山西省出土文字資料 — 1988.
- 別輯 16 中国經濟關係雑誌記事総目録 (五) — 『銀行週報』(下) — 1989.
- 別輯 17 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (ヨーロッパ編) 1992.
- 別輯 18 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 上 本文編) 1994.
- 別輯 19 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (アメリカ・カナダ編 下 索引編) 1994.
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995.
- 別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (東アジア編) 1997.
- 別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998.
- 別輯 23 天津史文献目録 1998.
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999.

## 大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection, 1988.

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, 1996.

平成19年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日 程	時 間	課 目		講 師	備 考
6月18日(月)	9:30～ 17:00	開講式(9:30～10:00) オリエンテーション		小川 裕 充 (東洋学研究情報センター長)	
		漢籍版本目録概説 (10:00～17:00)	講義	田 仲 一 成 (東洋文庫図書部長)	
6月19日(火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	井 波 陵 一 (京都大学教授)	
6月20日(水)	9:00～ 17:00	中国書史概説	講義	高 橋 智 (慶應義塾大学准教授)	
6月21日(木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習 (1)	実習	大 木 康 (東洋文化研究所教授) 陳 捷 (国文学研究資料館准教授)	
6月22日(金)	9:00～ 17:00	朝鮮本について	講義	藤 本 幸 夫 (麗澤大学教授)	
6月25日 ～ 8月31日		所属図書館所蔵漢籍整理及び研究	自習		
9月3日(月)	9:00～ 17:00	東洋文庫について (見学を含む)	講義	中善寺 慎 (東洋文庫司書)	
9月4日(火)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長 澤 孝 三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9月5日(水)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの利用と構築	講義	安 岡 孝 一 (京都大学准教授)	
9月6日(木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	長谷川 修、篠原 宏 (宮内庁書陵部)	
9月7日(金)	9:00～ 16:30	漢籍整理実習 (2)	実習	大 木 康 (東洋文化研究所教授)	
	16:30～ 17:00	修了式		小川 裕 充 (東洋学研究情報センター長)	

平成19年度漢籍整理長期研修研修員名簿

No	所属図書館	氏名
1	東京大学文学部図書室	うちむら なおみ 内村 奈緒美
2	東京大学東洋文化研究所 図書室	たさき じゅんこ 田崎 淳子
3	東京大学東洋文化研究所 図書室	あじき ゆうこ 安食 優子
4	京都大学人文科学研究所 附属漢字情報研究センター	さくらい まちこ 櫻井 待子
5	国立国会図書館	いいじま さとか 飯島 さとか
6	慶応義塾大学 三田メディアセンター	くらもち たかし 倉持 隆

平成19年度東洋学研究情報センター 〈運営費〉決算

予算及び決算

(単位：千円)

予算費目	当初予算	追加配分	決算額	備考
研修事業	704		687	
4センター事業	30		6	
出版事業	2,170		2,160	
センター事務室の維持管理	2,054		1,559	
アジア研究情報Gateway	2,770		2,582	
予備費	455		5	
センタープロジェクト費	8,000		7,904	
計	16,183	0	14,903	

決算額内訳

(単位：千円)

予算費目	内 訳	決算額	備考
研修事業	漢籍講師旅費等	183	
	漢籍講師謝金	504	
4センター事業	センター長会議旅費	6	
出版事業	ニューズレター原稿謝金・出版費	369	
	センター叢刊出版費	1,104	
	広報用パンフレット印刷費	123	
	通信費・封筒印刷費	564	
センター事務室の維持管理	複写費	115	
	備品費	394	
	消耗品費	158	
	デジタル化推進経費	258	
	職員旅費	72	
	賃金	562	
アジア研究情報Gateway	賃金	1,995	
	原稿謝金	105	
	英文翻訳費	477	
	消耗品費	5	
予備費	NEASホームページドメイン登録料	5	
センタープロジェクト費	センタープロジェクト費	7,904	内訳は次ページ参照

平成19年度センター運営費プロジェクト 決算

(単位:千円)

No	プロジェクト名称	担当教員	予算額	決算額
3	アジア美術画像アーカイヴ【美術】	小川	3,240	3,220
4	中国美術関係資料の収集とデジタル化【美術】	板倉	940	919
5	イスラーム美術作品画像アーカイヴ【美術】	榭屋	180	166
6	東文研蔵アジア写真資料データベース【写真】	平勢	740	716
7	東京大学インド史跡調査団写真資料のデジタル化およびデータベース構築【写真】	榭屋	800	784
8	アジア・バロメーター	田中	1,000	1,000
10	アラビア文字圏ポリグロットグロサリー構築プロジェクト【古籍】	鈴木	1,100	1,099
計			8,000	7,904

【古籍】「アジア古籍電子図書館」、【美術】「アジア美術画像アーカイヴ」、【写真】「東文研蔵アジア写真資料データベース」の各サブプロジェクト